第７３回　宇宙科学・探査小委員会　議事要旨

１．日時：令和８年 10 月 15 日（木）　１３：００－１５：００

２．場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

３．出席者

（１）委員

常田座長、篠原委員、杉田委員、関委員、野村委員、山崎委員

（２）事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

鎌田審議官、山田参事官、樋口参事官

（３）関係省庁等

文部科学省宇宙開発利用課	梅原課長
文部科学省研究開発局戦略官（宇宙利用・国際宇宙探査担当）	遠藤戦略官
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	宇宙科学研究所（ISAS） 藤本所長
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	川崎理事補佐
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	国際宇宙探査センター 山中センター長
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	有人宇宙技術部門事業推進部 小川部長
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	宇宙科学研究所（ISAS） 澤井副所長
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	研究開発部門第３研究ユニット 石濱研究開発マネージャ

４．議事要旨

議題１　　宇宙科学・探査分野における宇宙基本計画実施の現状と課題

宇宙科学・探査分野における宇宙基本計画実施の現状と課題について、資料 1-1 から 1-4 を用いて JAXA より説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（〇：意見等）

- 〇 有人与圧ローバについて、他のプロジェクトへの影響が懸念されるところ、事業の全体像を明確化することが重要
- 〇 日本企業が商業宇宙ステーション（CLD）に参画できるよう、政府間を含む国際協力枠組みを整備することが重要
- 〇 ポスト ISS 時代に向けて、日本の低軌道活動における自律性を確保することが重要であり、特に、補給船技術など、日本が強みを持つ技術を戦略的に強化することが重要
- 〇 宇宙分野における人材育成や企業育成を進め、産業の基盤も強化することが重要

○ 宇宙分野の AI 活用に当たっては、情報セキュリティの確保、利用ルールの整備、信頼性・責任の担保に加え、用途やリスクに応じた適切な活用範囲の整理が重要

議題２　　宇宙基本計画（宇宙科学・探査部分）の改定に向けた論点案（叩き台）

宇宙基本計画（宇宙科学・探査部分）の改定に向けた論点案（叩き台）として、資料 2-1,2-2 で前回までの宇宙基本計画の宇宙科学・探査部分の議論を振り返り、資料 2-3 を用いて、内閣府から現状の論点案のたたき台について説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。
（○：意見等）

○ 大型回収技術について、日本として主体的に確保すべきか、国際協力を活用すべきかを含め、ポスト ISS 時代の国際競争力や市場参画の観点から検討することが重要
○ 月面活動については、有人与圧ローバを開発するだけでなく、その利用目的や科学的価値を明確化することが重要
○ 月面に関する研究開発において、米国のような継続的なエコシステムを構築することが重要
○ 月面における国際ルール形成への積極的な参画を進めることが重要
○ 宇宙科学・探査については、改めて、科学的成果に加え、産業・安全保障・人材育成など他の社会的価値との連携を強化することが重要

以上